

第7期北海道農業・農村振興推進計画の策定に向けた論点に対する御意見

(田所委員)

- ・ 高温、乾燥、豪雨等の気候変動に対する設備対策が必要ではないか。
- ・ 農業に支障をきたすようなオーバーツーリズムに対する対応、対策が必要ではないか。
- ・ 輸入品にできるだけ頼らずに、国内（道内）で循環する農業の仕組みづくりが必要ではないか。
- ・ 労働に負荷のかかる作業が高齢者でも無理なく取り組める対策が必要ではないか。（若手の体力等に頼るのではなく、年齢、性別関係なく取り組めるような対策）
- ・ 気候変動に伴い温暖な地域の品目も生産されるようになってきているが、生産はできてもそれらを集荷、貯蔵する施設が十分ではないため、地域として貯蔵施設を整える必要があるのではないか。（できれば加工、販路まで見据えた組織的な取り組みがあるとよいのでは）
- ・ 取組指標については、できるだけ目標をとらえやすい項目を設定する必要があるのではないか。

(前田委員)

「道産小麦の利用促進について」

- ・ 小麦は省力的に生産することが可能で、作付面積が増加していますが、一方で、実需者からの利用が進まず在庫となっているものが相当量あり、産地の負担が大きくなっています。道産小麦の利用促進が必要と考えます。

「人口減少に合わせた都市計画区域の見直しについて」

- ・ 農地の継承や担い手への集積を進めていく上で、都市計画区域内にある農地の相続税等の負担が大きいと感じています。人口減少が進んでいる中、それに合わせて柔軟に都市計画区域についても見直すことが必要と考えます。

「農業関連の職業選択が増える環境づくりについて」

- ・ 道内には農学部のある大学など複数の農業系大学がありますが、そこで学んだ学生が、卒業後は農業とは関連のない企業に就職することが多く、もったいないと感じています。弊社では東京農業大学や酪農学園大学と共同研究などを実施。研究費を寄付しており、実際に学生に農場に来ていただいています。昨年は東京農大のランドスケープ専攻する学生が社名版設置の計画と施工を実施。オホーツクではポップコーンの爆裂についての共同研究発表を実施しました。農学を学んだ学生が、農業関連の職業に就くことが増えるような環境づくりをしてほしいと考えます。